

2016年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯 090-2260-0671

Eメール: yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス: yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索



ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

教室だより 1月号

仕事始めと書き初め

西洋式の商慣習が普及する以前は、正月2日を一年の「仕事始め」とし、この日は普段の仕事を形だけ行い、その年の労働の安全や技能の上達を願うならわしがあったそうです。

年頭に新年の抱負や目標をしたための「書き初め」もこれになったもののようです。

「書き初め」は「吉(きつ)書(しょ)」ともいい、元日の早朝に汲んだ神聖な水「若(わか)水(みず)」で墨をすり、年(とし)神(がみ)様(家々に1年の実りと幸せをもたらすために、高い山から降りてくると考えられていた新年の神様)のいる恵(え)方(ほう)に向かって祝賀や詩歌を書いたことに由来します。

その年の心構えや抱負などを書き記し、精進するとうまく物事が進む。また、習い事などもこの日に始めると、一年間うまくいくとも言われています。また、大事なことは正月2日から取り組むぐらいの気持ちがないとうまくいかないという意味もあるようです。

近年はパソコンなどの普及で、自分の手で文字を書く機会が減っているように感じます。

子どもたちには学校の習字の時間に毛筆で書く機会がありますが、一般的な大人の方にとって、毛筆で書く機会というのはほとんどないのではないのでしょうか。

新しい年の初めにあたり、ご家族の皆さまで今年の目標を話し合わせ、お子さまと一緒に「書き初め」をされてはいかがでしょうか。

公文式の創始者・公文 公(くもん とおる) 先生の言葉より

“学年の枠にとらわれない——「ちょうどの学習」がめざすもの”

公文式は、年齢や学年にこだわることなく、自分の力で楽にできるところからスタートして、その子一人ひとりのペースで進んでいきます。つまり、一人ひとりの、その時点の力にちょうどの内容を学習させ、自分の力で進んでいけるように指導しているのです。

子どもの能力は、「ちょうどの学習」を積み重ねていくことによってこそ、私たち大人の想像を超えた伸びを見せてくれます。無理に引っ張ろうとするのではない「ちょうどの学習」なので、子どもは学年を越えた内容に進んでも、それほど負担を感じず主体的に学習していくことができるのです。

「ちょうどの学習」とは、他と優劣を競わせるのではなく、あくまでもその子どもを主人公として、一人ひとりの可能性を引き出していく教育法です。「学ぶ」ということは、昨日までできなかったことを明日にはできるようにしていく、自分自身の成長・向上への挑戦だ、と公文式は考えています。「自分から学習」していこうとする意欲を育む方法——それが「ちょうどの学習」なのです。

2016年 1月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
					1 祝	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11 祝	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

本市場教室日□

横割教室日△

因果応報

いんがおうほう

いいことをするといい結果に、わるいことをするとわるい結果になること。

「勉強しないで遊んでばかりいたので、テストでわるい点をとってしまった。因果応報だ。」

「弟はお兄ちゃんのおやつをかってに食べ、因果応報でお母さんにしかられた。」

くもん出版刊「四字熟語カード」

今月の四字熟語

KUMON

ゆき子の一言コラム

子供の学力を上げる方法

公文のよいところ

公文の良さは、人と人とのつながりを大切にする「寺子屋」です。教室での挨拶やしつけは、公文では徹底します。そうすることにより、素直で優しい教育を身につけられると信じています。大手塾では、ただ詰め込むだけの学校と同じ、詰め込み教育をやっているにすぎません。確かに、色々な条件を付けて格安に設定していますし、私どもが負けるくらいの安い料金の設定です。でも、私には、それに勝る長年培った、指導力・キャリアがあります(公文一筋40年)そのノウハウを惜しみなく公文生に注ぎ込んでいます。これから、高校という受験が中学生になってからの壁があります。親御さんもそれを痛いほど実感していることでしょうか。どの高校へ行けるのかではなく、本人の希望する高校へ行かせましょうが私どもの答えです。それには、公文を高校受験まで続けることです。いま、当教室でもそうですが、小学生高学年から中学生になった公文生の中に、宿題をしない、まじめに取り組まない子が蔓延してきています。公文の本質は、教室で学んだことを家でも自分で復習することです。最近はそのがなされていないのが実情です。親御さんの方でも、しっかりと把握していらっしゃるのでしょうか？しっかりと宿題や、復習をする公文生は、学校でもトップクラスです。なぜうちの子は？と思う前に一度教室にそっと覗いてみにきてください。しっかりとやる子とそうでない子の差は一目瞭然です。出来る子は、時間をかけてでもじっくりやりますが、そうでない子は、おしゃべり中心で勉強そっこのけです。あることないことペラペラとよくしゃべります。何度注意しても上の空です。学校でもそうなのかなと少し心配ですが。公文よりあそこがいいとか、友達を連れてくると割引・兄弟で来ると割引システムをうたい文句での情報も、友達同士の聞きかじりで、どこそこの塾はどうだと、いいことづくめにしゃべっています。親御さんにでも同じように話しているのでしょうか。でも、真に受けてはいけません。高い月謝を払う親側には、悪い情報は何も伝わってきませんからそこが怖いのです。本当の本質は、塾に行くことよりも自分がやる気を持って勉強することなのです。そうではありませんか？その子は何度注意しても、いうことを聞きませんし、何のために公文へ通っているの？と言いたくなります。これって、まさか、うちの子ではないでしょうか？と思いついたら、まず親御さんの目でしっかり見に来て下さい。大手では、入室見学を歓迎しませんが、教室日でしたら公文はいつ来ても問題ありません。

本当に真剣に公文式学習法を実践することで、保護者の方が信じられないほどの結果を残しています。もちろんそれは、私がすごいわけではなく、本人が努力したからこそその結果であることは言うまでもありません。

「子供を勉強において自立させたい！」という気持ちがある親御さんには、この公文式学習法は有益なものになると自負しています。それは、多くの家庭と関わっていく中で、「うちの子、勉強の仕方がわからないみたいで・・・」と落胆している保護者の方たちを見続けてきて実感したことです。まず、公文教室に少しでも早く来てもらって、余裕を持って正規の公文式学習をこなし、空いた時間を他の学習に切り替えて、理科、社会などの暗記系科目は、サーキットトレーニングさえ知っていれば解決できますので社会の問題集は、1ページあたり10分もあれば余裕で暗記してもらいます。音楽、美術、技術家庭、保健体育・・・、誰もが悩む副教科ですが学習法があります。

それには、早く教室に来させてください。部活で遅くなるのはかまいませんが、ほとんどの遅い子の場合はどこかで寄り道をしてから来ますので、十分な時間がないのですよ。それをわかっていますか？

早く来てもらい、空いた時間を利用し質の高い学習をしっかりとやらせたいと考えています。

公文でやっている以外の科目を公文と同じようにやればいいのですから、効率は上がります。

まずは、親御さんが周りの雑音にまどわされずに、ずっと公文へ行かせると子どもに言い聞かせることだと思います。何度もお話しいたしましたが、とにかく一度教室へお子さんがしっかりと学んでいるか、おしゃべりして勉強していないのか？まじめに取り組んでいるのか、見て確認しに来て下さい。

高い月謝を払っているのは自分なのですから。

冬休みの宿題は

基本的に 自分お渡しする予定です。

年末年始のあわただしい中での学習習慣はくずれやすくなります。宿題のやり残しは、お子さまの学習意欲の減退につながります。冬休みの学習を、ご家庭でお子さまと話し合ってください。ただくようお願いします。

宿題の増減についてご希望がございましたら、最終学習日までにお申し出ください。

お休みのときは、電話でも携帯メールでも結構ですので連絡をお願いします。1月分の会費引き落としは12月28日(月)です。よろしくお願ひいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。

